

石川町

議会だより

No. 181

平成27年 2月1日

発行／石川町議会
編集／石川町議会広報
編集特別委員会



▲飛翔(沢井大池) 撮影:添田義弘氏

2014 12月定例会 議会報告会特集

- P2 12月定例会審議結果
- P4 紙上中継 (各常任委員会)
- P5 12月定例会一般質問
- P10 あれからどうなった?
(一般質問のその後は)
- P12 第4回議会報告会 (10月21日~23日)



専決処分・条例改正・補正予算ほか

平成26年12月定例会は、12月11日から17日までの7日間の会期で開かれ、専決処分1件・条例改正8件・補正予算6件・町道路線の廃止、認定2件・人事案件2件合計19件を原案のとおり、可決しました。一般質問には、5人の議員が登壇し、町政を問いました。また、34人の傍聴がありました。

議案番号	12月定例会 議案	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	議長
		議決結果	草野 伝明	下山田和雄	関根 武一	渡邊 貴	秋山 茂雄	遠藤 貢蔵	永沼 一夫	角田 忍	関根 信次	矢内 義将	中村孝太郎	山田 英重	二瓶 義雄	大野 肇
第63号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度石川町一般会計補正予算（第4号）） 衆議院議員総選挙に係る県からの委託金について専決処分を行ったもの	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第64号	石川町職員の給与の臨時特例に関する条例及び石川町企業職員の給与の臨時特例に関する条例を廃止する条例 一般行政職並びに企業職に属する職員の給与の支給額を減額するための特例期間が満了しているため、当該条例を廃止するもの	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第65号	石川町議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 一般職の職員の給与改定に準じて、期末手当支給月数を引き上げるための改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第66号	石川町長等の給与に関する条例の一部を改正する条例 特別職の職員の給与に関する法律の改正に伴い、期末手当支給月数を引き上げるための改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第67号	石川町教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例 特別職の職員の給与に関する法律の改正に伴い、期末手当支給月数を引き上げるための改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第68号	石川町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 県人事委員会の勧告並びに県及び県内他団体の動向を踏まえ、一般行政職に属する職員の給料表の改定及び勤勉手当支給月数を引き上げるための改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第69号	石川町税条例の一部を改正する条例 地方税法の一部改正等に伴い、軽自動車税の小型特殊自動車の税率についての改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第70号	石川町税特別措置条例の一部を改正する条例 「産業集積の活性化に関する基本計画」の国の同意日が2年間延長されたことに伴う改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第71号	石川町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例 県人事委員会の勧告並びに県及び県内他団体の動向を踏まえ、企業職に属する職員の給料表の改定及び勤勉手当支給月数を引き上げるための改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第72号	平成26年度石川町一般会計補正予算（第5号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第73号	平成26年度石川町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第74号	平成26年度石川町介護保険特別会計補正予算（第3号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第75号	平成26年度石川町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第76号	平成26年度石川町宅地造成事業特別会計補正予算（第1号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第77号	平成26年度石川町水道事業会計補正予算（第1号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第78号	町道路線の廃止について 経営体育成基盤整備事業の道路整備により、終点部の位置に変更が生じたため、廃止するもの	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第79号	路線の町道認定について 林道を新たに町道として認定するほか、廃止した2路線の終点部の位置を変更し、再度認定するもの	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第80号	石川町固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第81号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

商店街街路灯のLED化支援 などに増額補正

各会計補正予算の 主なもの

一般会計

石川町除染実施計画に
基づく道路除染作業委託
料859万9千円、水稲
の放射性セシウム対策
（放射性物質吸収抑制対
策事業補助金）に、96
0万円、商店街街路灯の
LED化支援（商店街ま
ちづくり事業補助金）に、
2528万3千円、温水
プールボイラーの老朽化
に伴う更新事業に140
0万円を増額するもの
です。

国民健康保険特別会計

前年度の事業費確定に
伴い療養給付負担金等の
国庫支出金返還金等に1
860万2千円を増額す
るものです。

介護保険特別会計

国庫支出金等返還金等
を増額して、施設介護
サービス給付費、特定入
所者介護サービス費等を

減額し会計全体で412
6万2千円を減額するも
のです。

簡易水道事業特別会計

前年度繰越金を財源に、
施設管理費等81万7千円
を増額するものです。

宅地造成事業特別会計

藤沢工業団地内環境整
備に86万4千円を増額す
るものです。

水道事業会計

ポンプ場に係る電気料
等に33万1千円を増額す
るものです。

石川町固定資産評価審査 委員の選任を同意

固定資産評価審査委員
会委員の選任について、
飯島裕氏（形見）、齋藤
一彦氏（南町）、曲山永
幸氏（塩沢）の選任を同
意しました。

人権擁護委員候補者 の推薦

人権擁護委員候補者の
推薦につき意見を求める
ことについて、引き続き
郷信子氏（大字新屋敷）
の推薦を適任としました。

第6回臨時会

10月29日

第6回臨時会は10月29
日に開催され補正予算1
件、変更契約の締結1件
が審議されました。

補正予算については、
台風18号及び19号に伴う
降雨により、農道、水路
等に被害が発生したこと
から、被災個所の復旧に
必要な事業費を計上する
ほか、谷地排水路改修に
係る事業費など緊急的に
予算措置が必要な事業費
について1639万7千
円を増額補正するもの
です。

また、変更契約の締結
については、「新石川小
学校校舎建築工事請負変
更契約の締結について」
であり、校舎地盤の高さ
調整、転石撤去工事の追
加、杭工事の工法変更等
により工事内容に変更が
生じたため、請負金額を
7466万9040円増
額補正するものです。



▲12月定例会議場

議案番号	第6回臨時会 議案	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	議長
		議決結果	草野 伝明	下山田和雄	関根 武一	渡邊 貴	秋山 茂雄	遠藤 貢蔵	永沼 一夫	角田 忍	関根 信次	矢内 義将	中村孝太郎	山田 英重	二瓶 義雄	大野 肇
第61号	平成26年度石川町一般会計補正予算（第3号） 台風被害に伴い農道、水路等の復旧費及び谷地排水路改修費など 1639万7千円を増額補正するもの	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第62号	新石川小学校校舎建築工事請負変更契約の締結について 工法変更等により工事内容に変更が生じたため、請負金額を 7466万9040円増額し契約を変更するもの	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-



総務産業建設

Q 首都圏アンテナショップ事業の減額は

A 県のアンテナショップに出店し、独自の設置は困難と判断

Q 補正予算で、アンテナショップ事業委託料が減額となっているが、どのような理由か。

A 当初、首都圏に町のアンテナショップを設け、特産物等の販売促進を計画しました。非常災害時等相互応援協定締結区である荒川区に打診し、検討を重ねて



▲日本橋ふくしま館 MIDETTE

もらったが、適地が見つからず、進展しませんでした。荒川区からも無理との返事があり、困難と判断しました。

Q 折角、首都圏アンテナショップを計画したのに、もっと検討

することができなかったのか。

A 福島県が首都圏にアンテナショップを開設したので、これに参加し、出店することを考えています。町独自で設置することは、困難と判断しました。

Q マイナンバー制度の予算は

A 地方公共団体情報システム機構に支出する

Q 補正予算で、マイナンバー制度（社会保障・税番号制度）のための予算が計上されているが、制度の動きは。

A 予算は、地方公共団体情報システム機構に支出するもので、平成29年度の開始に向けて進めています。

庁内には、ワーキンググループを立ち上げて検討を進め、3月から4月には広報紙等で町民への周知を行う予定です。

文教厚生

Q 新石川小学校校舎建築工事の進捗状況と今後は

A 町ホームページ等で町民に周知

A 新石川小学校校舎建築工事は、工区を西側（野球用側）から第1工区、第2工区、第3工区、第4工区の4つに分けて施工しています。

12月19日現在の各工区の進捗状況については、第1工区は12月17日に2階の躯体コンクリー

ト打設が終了、第2工区は2階部分の内装部固め・支保工、梁配筋、第3工区は2階部分の梁型枠・壁型枠、壁配筋、第4工区は多目的室の梁配筋をそれぞれ行っている状況です。

新石川小学校校舎建築工事の工程は、当初の工程から大き



▲新校舎南側 第1・第2工区

Q 町長の3期目に向けた運営方針は

A 町民の視点に立ったオープンな町政

関根 信次議員



【質問】 町長の、3期目に向けた考え方、町政の基本姿勢と運営方針は。
【答弁】 3期目は、これまでと同様に「町民の視点に立ったオープンな町政」の実現を基本姿勢とします。また、「決断と実行」により、町民と行政が知恵を出し合い、町民参加による、個性豊かで、魅力あるまちづくりの推進を、町政運営の基本方針とします。
【質問】 町長として、最初になさなければならぬ仕事は何か。
【答弁】 後期基本計画の推進とともに、小中学校の施設整備を早期に完成させること。子育て支援

をより充実させること。「まちなか再生行動計画」に基づき、中心市街地のにぎわいを創出すること。そして、役場庁舎を建設することと考えています。
【質問】 公共工事等の入札で、公平を期すには何が必要か。
【答弁】 入札は、公共工事の入札及び契約の適正化に関する法律をはじめ、関係する法令等を遵守しながら、常に公平で公正を保ちながら、適正な入札執行に努めます。
【質問】 米価下落に伴い、農家に対し手厚い支援ができないか。
【答弁】 農地集積を図ってきた稲作農家の、規模を維持するための支援、経営所得安定対策・収入減少緩和対策への加入促進、集落営農への組織化に対する支援等を検討したいと考えます。
【質問】 町道整備の、長期の道路改良方針は。
【答弁】 地域間を結ぶ幹線道路、公共施設へのアクセス道、防災上の迂回道

歩行者交通の安全確保の通学路など、路線の幹線性・整備の緊急性等のほか、交通量や投資的効果等を総合的に勘案し、実施計画の中に示しています。
【質問】 各般にわたる町道整備の請願、陳情、要望は、執行部の3役及び各課長レベルで決めるのか。
【答弁】 数多い要望の中、限られた財源で効果的・効果的な整備を図るため、生活に密着した路線を重点的に、国県補助を活用しながら、整備促進を図っています。
【質問】 役場新庁舎建設工事の入札が不調となったが、次の入札で設計及び内容を見直す考えがあるか。
【答弁】 現在、設

計内容について、更なる縮減ができないか精査を重ねています。しかし、設計価格と実勢価格との差を埋める大きな削減は困難であり、実勢価格を反映させた設計を組まざるを得ない状況です。早い時期に、検証結果に基づき設計見直し案をまとめたいと考えます。



▲町道111号線（母畑字長石田）



渡邊 實議員

Q 積極的に廃校の利活用を

A 活用案を早急に地域の皆さんと協議する

質問 学校統合まで、あと3ヶ月、廃校の活用は統合と同時に進めるべき問題であるが、具体化していない。町の計画は。

答弁 利活用を検討中であり、民間事業者からの照会があります。

基本は、町が必要な施設は町で管理運営し、そのほかは地域と協議し、地域で活用できるものは地域で、民間で活用できるものは民間でと考えています。

施設の活用案を地域に提案し、協議します。

質問 4月以降の管理は、町管理となります。

Q 米価下落に支援を

A 国や関係機関に要望

質問 今年度の米価は、

J Aの概算払金で、中通りコシヒカリ1俵当たり、昨年より3900円安い7200円となった。大きな下落で町の支援策は。

ます。国の対策への加入や担い手農家への支援を検討します。また、政府に要望活動を展開します。

質問 重く受け止めています。

質問 米価下落の影響は、

答弁 町の平成25年度産米の生産量は、8万3千俵です。影響は3億円となります。

質問 米の生産費は、

答弁 東北平均で1俵当たり1万3490円です。

質問 これでは赤字であり、耕作止めが出るし、集落も崩壊する。国の支援対策の該当者数は。

答弁 ナラシ対策の加入者は4農家、円滑化対策は318世帯です。

要望 町独自の支援と長期的な施策を要望します。

Q トライハイ石川母畑インターの活用を

A 県にアクセス道路整備を要望

質問 トライハイ（あぶくま高原道路）石川母畑イ

ンターの利活用計画は。

答弁 企業事業用地や母畑温泉・市街地への誘客のために期待できますので、県に、アクセス道路整備を要望しています。

質問 県への要望路線は、

答弁 インターから東地区への1・8kmです。

質問 県が平成25年度に、「官民連携による福島空港防災設備蓄機能拡充に関する検討調査」を実施した。

インター利活用に空港の活用を入れる考えは。

答弁 福島空港の利活用と周辺整備が防災上からも重要な課題です。

Q 学校給食費の半額補助は

A 平成27年度から実施

質問 町長選挙の公約である、まちなか住宅の建設計画は。

答弁 合同庁舎跡地に8戸を計画、平成27年度用地調査、平成29年度に建設を計画します。

質問 小中学校の給食費の半額補助は。

答弁 平成27年度から半額補助を計画します。

質問 保育所への補助は。

答弁 学校実施後検討します。

質問 市街地に、役場住民サービス窓口開設は。

答弁 公共施設を活用し、住民票や印鑑証明等の交付を考えています。



▲期待される石川母畑インター

Q 鉱物資料館
三大鉱物産地として質の高いものに

A 中身が立派なものを考えている

中村孝太郎議員



【質問】 日本三大鉱物産地に数えられる石川町には多くの鉱物研究者や学生が訪れ、ベグマタイトから産出される140種を超える鉱物は、自然から与えられた全国に特質した石川町の貴重な財産です。戦時中に理化学研究所が置かれ、原子爆弾の研究開発が行われたことも後の世代に引き継がれなければなりません。森嘉種先生や三森たか子先生などの貴重な調査・研究資料も、後の研究に資する大切なものである。

【質問】 鉱物資料館を鉱物研究に資する質の高いものにするための町の考え方を教えてください。

【回答】 そのような方向で考えます。

【質問】 介護保険制度は、平成12年4月に施行され、第6期の見直しは高齢化のピークを迎える「2025年度問題」を見据え、医療や介護の仕組みを見直す「地域医療・介護総合確保推進法」として6月18日に成立しました。

鉱物の採掘跡の現状と保存について。

【回答】 鉱物資料館には、ここ数年、鉱物関係の学部・学科などを専攻する学生や関係者の来館が増加している。

資料館の整備のために人的な資源の育成や確保を図ると共に鉱物資料館の基本構想等を作成し、施設の整備を図ります。

鉱石採掘跡は、現在数カ所が見学や試掘可能となっております。和久観音山鉱山跡は、今後、鉱物保護収集委員や関係者の意見をいただきながら環境の保護と整備を進めてまいります。

【質問】 建物が立派ではない、中身が立派なものを。教えてください。

利用者が増えても介護保険制度が維持できるように、高齢者の負担増やサービスの利用条件を厳しくしたりと、介護保険利用者には厳しい改正が特徴と聞く。

【質問】 介護保険制度見直しの主な内容、被保険者に対する影響、介護事業者に対する影響、要支援の町移管に対する対応は。

【回答】 地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化が主な改正です。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するための介護・医療などの充実、特養の新規入所を原則要介護3以上に、低所得者の保険料軽減の拡充、一定以上の所得者への自己負担引き上げなどです。

被保険者への影響ですが要支援者はボランティアなど地域の多様なサービスを活用、特養入所の要介護3以上は中・重度者の早期入所が期待されます。介護事業者への影響は特養入所者が3以上になることで現場職員の負担増が考えられます。

Q 新庁舎建設は工事が不安定、様子を費が不安定、様子を見られないか
A 変更案が出来たら実施したい

【質問】 新庁舎の入札は不調に終わりましたが、新庁舎予算は実質的な借金はないとする町長の選挙公約に反するもので納得しない多くの町民もいます。その事も踏まえて不調に対する対応は。

【回答】 新庁舎は、設計を見直し、一層の設計額縮減と、資材や労務費の実勢価格を反映した見直し案をまとめ、再入札をしたいと考えています。

する説明と了解も必要だと思いが。

【回答】 変更案が出来たら議会に説明して実施したいと思えます。

【質問】 小・中学校統合に伴う平成27年4月以降の廃校の財産や安全管理は。

【回答】 閉校後の施設管理は町で施策上必要な施設は直接管理及び運用を図り、地域や民間での活用については利用形態が決まるまでは町で管理します。



▲和久観音山鉱山跡の現地調査



下山田和雄議員

Q どういうする鉱物を生かしたまちづくり

A 保存会とともに環境整備に努める

質問 和久観音山鉱山跡を、今後どのように保存・活用するのか。

答弁 地権者の理解を得ながら、保存会の皆様とともに良好な環境整備に努めます。また、観光事業等とも連携し、鉱物の町としてさらなるPRを進めていきたい。

質問 第一・第四鉱体の文化財指定等の考えは。

答弁 来年、早急にどのような形での指定が良いのか、検討します。また、和久観音山鉱山跡地の取得について、検討を進めます。

質問 体験学習に必要なズリと、駐車場の確保はどうか。

答弁 現在、小学校（四年生、五年生）では鉱山を訪れて、「大地の学習」

の体験学習を行っており、今後もズリが必要で、また、観光バス等の駐車場問題は、前から指摘を受けていますので、解決

させなければなりません。四つの鉱体施設の保存だけでなく、周辺の観光を考えあわせた整備の検討を進めます。



▲和久観音山鉱山第1鉱体

質問 鉱物館の整備拡大の考えはあるか。

答弁 現在の公民館を、鉱物資料館展示場あるいは研究室等々に活用する方向で、考えています。どういう形になるかの写真等は、来年1年をかけて作る計画を持っています。

質問 鉱物館に専門知識を持った職員配置を。

答弁 来年度に、嘱託職員等の配置ができるよう協議中です。

質問 石川町防災訓練の実施計画はあるか。

答弁 石川町の県中総合防災訓練は、平成29年に大規模で広範囲の訓練を予定しています。また、27年には、町独自の訓練として、土砂災害防災訓練を計画したいと考えて

います。

質問 避難所の設置は。

答弁 風致地区に指定されている源平山に、最低限の規制に抵触しないよう、高齢者や子ども、体の不自由な人に配慮した避難所を計画したいと考えています。



▲第4鉱体の電気石

質問 6次化について、農業団体や商工業関係者など、組織化を図り基盤整備する必要があるのではないか。

答弁 非常に大事なことであり、各地域で取り組んでいます。助成の問題等、町でも関わりを持つていかなければならないと考えます。

質問 直売所の開設に向けた取り組みは。

答弁 将来的には、直売所問題も検討しなければなりません。現在は、まちなか再生の問題を優先していきたいと考えます。

Q 石川五山の樹種転換計画は

A 樹種や管理等について検討中

秋山 茂雄議員



【質問】 石川五山樹種転換計画は。

【答弁】 杉などの針葉樹から、桜などに樹種転換を図り、江戸時代の風景とも言える「いしかわ峡谷」の景観を創生するものです。

今後は地権者の承諾を得ながら、区域や本数を検討していきます。

【質問】 桜の種類はどうするのか。

【答弁】 余り管理に手のかからない、山桜等を検討しています。

【意見】 桜の苗木を全国の市町村から寄附して頂いて、桜が咲く時期に案内を出し全国から多くの人が見に来るのではないかと。

と思う。いろいろなアイデアを出して成功するようお願いいたします。

Q クリスタルパークの一部をパターゴルフ場へ

A 安全管理の面から難しい

【質問】 総合運動公園の維持管理費と野外ステージの利用は。

【答弁】 総合運動公園やさひ公園、ふなっこ広場、駅前駐車場等の業務委託料は1081万5千円で、野外ステージの利用は年間数件程度です。

【質問】 クリスタルパークの一部を、パターゴルフの練習場として開放する考えはあるか。

【答弁】 子どもから大人までの誰もが利用されており、広場の一部をパターゴルフ



▲総合運動公園

に限定して利用することは、安全管理面から難しいと考えています。

Q 統合小学校に伴う児童に対するケアは

A あらゆる努力をする

【質問】 統合小学校の建設の遅れから、来年4月から完成するまでは現石川小学校を利用することになる。石川小学校の児童

以外は、石川小学校に転校するような形になるが、児童へのケアは考えているのか。

【答弁】 学校の統合ということは、転校することとは違い、新しい学校がスタートするんだという意識の醸成に努め、子どもたちの新鮮な感覚を育てるために全力を挙げて対応します。

【質問】 現石川小学校へ通うことになる児童に対するケアは。

【答弁】 学年間交流事業を実施し、環境の変化や集団生活に慣れるよう対応する。

【質問】 不登校児童はいるのか。

【答弁】 現在、町内の小学校で3名です。

【質問】 不登校の原因に、いじめはないのか。

【答弁】 いじめが原因とするものはない。

【質問】 家庭訪問時に、児童を確認しているか。

【答弁】 もちろん確認しています。

【質問】 中学校の不登校生徒はいるのか。

【答弁】 中学校の不登校生徒はいるのか。

【答弁】 現在11名で、増加しています。

【質問】 不登校の小中学生に、どのような対応をしているのか。

【答弁】 担当の先生と生徒が話し合い、学習指針を作成している。また、保健室でのプリント学習等を行っている。中学生については、進路に向けての対応等、あらゆる努力をしています。

【質問】 小学校の統合は、不登校児童にとって良い機会ではないかと思うが。

【答弁】 その通りですが、全く逆のパターンもあります。そのようなことも踏まえて、子どもたちに対して、不安がなくなるようあらゆる角度から対応に努めているところであります。

【意見】 現在、廃校に伴う整理がされているわけですが、学校のお宝が紛失しないように管理をお願いします。また、学校行事は、ひとり親家庭も多いため、できる限り負担が少なくなるよう努力して頂きたい。

あれからいつだった？

一般質問のその後は

平成25年12月定例会より

まちなか再生計画は 町民と一緒に

●「まちなか再生委員会を設置し行動計画を策定中だが重点施策は」との質問に対し、「まちなか拠点施設、自由民権史跡の整備、現石川小学校は文教複合施設を検討」との答弁であったが、その後は。

●行動計画は、前期・中期・後期計画の10年間とし、前期計画として鈴木重謙屋敷再建及び活用、文教複合施設の整備、中期計画とし

て鉱物資料館の整備、まちなか拠点施設の整備などが含まれていきます。

また、第5次総合計画第7回実施計画との整合性を図りながら計画の策定作業を行っています。

●「市街地の町民と一緒に」になって計画を作るべきと思うが」の質問に対し、「商店街の皆さんと議論を重ね計画を策定します」との答弁であったが、その後は。

この意見交換を行いながら進めてまいりました。

●計画策定にあたり、まちなか再生委員会の委員の皆さんや、行政・経済・教育・歴史文化・保健福祉・ボランティア団体の皆さん

今後、計画の具体的な推進に際しては、町民の皆さんの積極的な事業への参加や協力、そして、連携を図りながらまちなかのにぎわいづくりに取り組んでまいります。



▲鈴木家跡の薬医門

高齢者サロンの 環境整備は

環境整備は

●「送迎や環境整備の課題を検証し予算を付けるべきではないか。」との質問に対し、「高齢化対策に有効であり、今後もご協力を得ながら積極的に環境整備を図っていくと考えています」。との答弁であったが、その後は。

くなっている状況がみられます。

サロンを開催する集会所については、平成25年度までに、手すりやトイレの改修が必要な19箇所を整備しました。

サロンは、歩いていける送迎のいない身近な所を基本に実施しています。

●高齢者サロンは、現在41箇所（うち2箇所休会中）あり、65歳から75歳未満の方が約150人、75歳以上の方が約350人集い、交流を図っています（週1回開催18箇所、月2回7箇所、月1回14箇所）。虚弱な高齢者の方が元気な高齢者の方の手助けを受け、地域のつながりも強



▲猫啼サロン

報告します 議会の活動

議員が全員参加

福島県町村議会
議員研修会

10月28日、ビッグパレットふくしまで開かれた県町村議会議員研修会に議員全員が参加し、明治大学名誉教授の中郵章氏から「地方政治の課題（転換期を迎える議会）」、帝京大学経済学部教授の黒崎誠氏から「これからの政治・経済のゆくえ」について研修しました。

農業6次産業化 への課題を研修

石川地方町村議会議員研修会が11月7日玉川村で開催され、石川管内5町村の議員が参加しました。
福島大学の西川和明教授から「農業6次産業化への課題」についての講演を聴講し、管内の議員との情報交換も行われました。

◀ 転換期を迎える議会について学ぶ



那珂川町議会が来町

栃木県那珂川町議会総務企画常任委員会が11月19日来町されました。

研修のテーマは「庁舎建設について」であり、那珂川町においても新庁舎建設の予定があることから、建設場所の決定、庁舎の構造や規模、設計の概要などについて質疑を受け、活発な意見交換が行われました。

先進地に学ぶ

文教厚生常任委員会
所管事務調査

文教厚生常任委員会では、委員会や議会活動の参考にするため、山形県小国町の健康増進計画並びに山形県山辺町の健康づくり事業・介護予防事業について所管事務調査を実施しました。
2日間にわたり医療福祉分野の先進的な事例を研修しましたが、事業実施にあたっては十分に住民のニーズや包括的な調査分析を行い事業に取り組んでいました。また、施策の評価や課題の検証をするなど事業の改善にもつとめており、大変参考となる研修でした。



▲ 庁舎建設について意見交換が行われた



▲ 小国町健康管理センター



▲ 山辺町保健福祉センター

直接対話を大切に



▲石川地区会場

10月21日〜23日にかけて、2班集体で開催した第4回議会報告会には136人の町民の皆様にご参加をいただき、誠にありがとうございました。
報告会では、議員から9月定例会の審議内容や議会の活動、重要案件の審議と結果を報告し、そのあと町民の皆さんから町に対するご意見を伺いました。皆さんから出された多くのご意見は、今後、実行委員会にて調査・協議を行い町執行部に要望する予定です。

皆さんから 出された意見

学校統合後の廃校利用

- ・学校跡地利用の情報を提供してほしい。
- ・学校の跡地利用については、どのような要望がだされているのか。決まるまで、暫定的に地域で利用できないか。
- ・他町、他県の人から利用してもらえようような施設にすることが望ましい。

自治センター

- ・自治センターの仕事量が増え、現在の職員数では大変である。
- ・月1回ぐらいは町職員が巡回し、自治センター職員の意見を聞くなどの対応をしてほしい。また、仕事の量が多すぎる。

産業

- ・6次化の取り組みを積極的にお願いしたい。
- ・水稲に取り組むには、農地の整備をお願いしたい。
- ・米価が下がり、中山間

地の遊休農地が増える心配をしている。
・イノシン被害の対応をお願いしたい。

建設

- ・生活道路の整備をお願いしたい。デイサービスの送迎など悪路のため苦労している。
- ・町営住宅の対策を早急にとるべき。

その他

- ・県立石川高校の定員が減少しているので対応してほしい。
- ・石川町に2つの高校があるが、町の活性化に生かす方法を考えるべき。
- ・高校生のために、気軽に立ち寄れる場所があればよい。

組んでほしい。
・長い伝統を誇る石都々古和気神社例大祭について、祭りを宗教としてとらえるのではなく、文化としてとらえ、町から助成できないか。
・河川の中州は景観上よくない。何とかしてほしい。
・母畑ダム湖の水はアソモニア濃度が高いので、改善を。
・災害時など町は地区の要望に対して対応が遅い。
・議会と町執行部が顔を突き合わせ、話をする場を作るべき。

- ・総合運動公園サブグラウンドにトイレを作ってほしい。
- ・若い人の雇用問題に取り

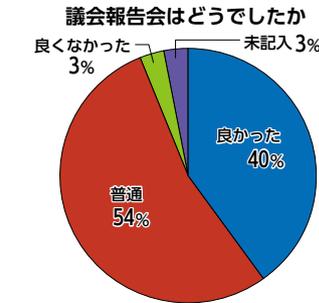
山橋・石川・野木沢地区					1班	班編成
大野	山田	中村	関根	永沼		
峯	英重	孝太郎	信次	一夫	武一	
				忍		
中谷・母畑・沢田地区					2班	班編成
二瓶	矢内	遠藤	秋山	渡邊		
義雄	義将	貢蔵	茂雄	實	伝明	
					和雄	

第4回議会報告会

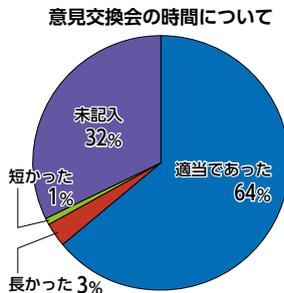
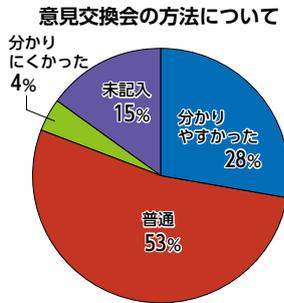
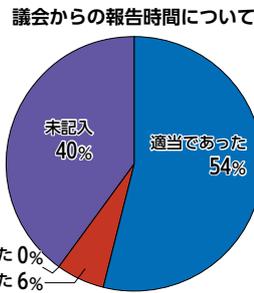
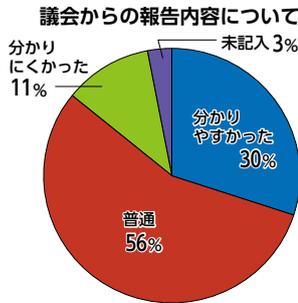
アンケートに寄せられた声

アンケート結果

● 報告会参加者 136人
● アンケート回答者 93人



▲母畑地区会場



■議会報告会はどうでしたか

- ・町の現状がわかる。
- ・町に対しての議員の活動が理解できる。
- ・町議会の熱心な取り組みを知ることができた。
- ・いろいろな意見を聞けて良かった。
- ・活発な提言・要望があり、議会の対応に期待する。
- ・直近の話が多かったので、良かった。
- ・地域振興について様々な意見を聞くことができた。
- ・開かれた議会として、このような場を作っていただきありがとうございます。

■意見交換についてお伺いします。

- ・特定の人が時間を取りすぎる。
- ・同じ人の持ち時間が長かった。
- ・意見が少ない。
- 「議会報告会」について、ご意見・ご要望
- ・初めて参加し、大変勉強になった。
- ・町民に開かれた議会の姿勢が見受けられて努力を評価する。
- ・地区住民の意見を直接議員の方々に伝える機会があるのは良いと思います。
- ・地区民がもっと関心を持って参加できる工夫は必要と考える。
- ・区の役員が主で、一般参加者が少ないので、報告会の時間等を考えるべきではないだろうか。
- ・内容は知り得ましたが、今一歩進んだ話があれば良かった。
- ・参加者が少なくて残念だった。
- ・地元議員が出席すべきだ。
- ・町当局に今回の報告会

の内容を話してもらいたい。

- ・必要なし。
- ・行う必要性が薄いと思う。
- ・年1回定例開催を望みます。
- ・年1回の議会報告会を2回にしてほしい。
- ・定期的に開催していただきたい。
- ・これからも継続してください。
- 石川町議会について、ご意見・ご要望等
- ・本日も意見・要望がたくさん出ましたので、出張してこのような報告会を行うことは非常に良いと思います。
- ・開かれた議会を心がけていただければいいのでは。
- ・町政におけるリーダー的な人が少ない。
- ・今後のより一層の活躍を要望する。
- ・町民の代表として細かい声を聴いてもらいたい。

未来に向かって!!

― 高校生の声 ―

福島県立石川高校 3年 本郷渉吾

子どもたちで にぎわう地域を目指して



本郷渉吾さん

私の将来の夢は、福島県の職員として、少子化対策、過疎化対策、人口減少の解消に貢献することです。

少子化と人口減少が、地方において凄まじい速度で進行している事実、私は強い危機感を持っています。この問題に興味を持ったきっかけは、石川郡内の小学校が相次いで統合・廃校になったことでした。統廃合がもたらす影響は、通学圏が広



▲総合的な学習発表会

あるという

がるということのみにとどまらず、個々の地区の特性、大げさに言えば、民俗の喪失にもなりかねない問題であると考えます。児童・生徒の人数が激減している状況からすれば、学校の集約はやむを得ない施策です。

しかし、地域にとつて学校はコミュニティセンターの機能も有しています。学校は地域のイベ

ントを行うことも多く、子どもたちを通じて文化が発信される場ともなっています。学校が地域社会を支えてきたと言っても過言ではありません。

この豊かなコミュニティの機能を維持・復興させるためには、少子化ひいては人口減少を解消するより他に道はないと考えています。

しかし、少子化・人口減少という問題には、国民が社会保障制度に対する不安を抱え、非正規雇用をはじめとする不安定な労働形態に置かれていることなど、日本社会の構造的な問題が根源にあります。つまり、少子化・人口減少問題の対策を担う公務員個々が、社会的な事象に関する幅広い知識・思考力

を持ち、地域の個性を十分に把握し、組織的かつ創造的に取り組むべき課題であるという

ことです。その意味で、地方公務員の果たすべき役割と、求められる能力は益々大きなものとなってきていると言えます。

このような公務員になるために、私は福島大学行政政策学類で学ぶ必要があります。受験する決め手となったのは、公務員試験の合格実績とフィールドワークというカリキュラムでした。特にフィールドワークでは実際に地域の現場に訪れることが出来るため、体験的知識として様々な地域政策のケースを学ぶことができます。合格することができた今、私は法律や行財政等に関する知識を身に付け、実践的な勉強に一生懸命取り組むことで、自分の目指すべき、地域づくりを担う公務員になるための基盤をしっかりと固めたいと思います。そして、子どもたちの笑顔があふれる元気な日本として福島を作るための一翼となりたいと思っています。



◀新春恒例の消防団出初式

議会広報編集特別委員	委員 長	草野 伝明
副委員長	関根 武一	
委員	下山田和雄	
委員	渡邊 實	
委員	遠藤 貢蔵	
委員	角田 忍	

議会を傍聴 しましょう
議会は、本会議・委員会とも傍聴できます。
3月定例会「一般質問」は3月9日(月)の予定です。

編集後記
新年おめでとうございます。
平成27年4月から石川町義務教育の学びの環境が大きく変わります。中学校が1校に、小学校が3校になりスタート。今まで身近な形で小・中学校が地域の中心的役割を果たしてきたわけですが、子どもたちも送迎バス、定期バス等によって登校し勉強に励むようになります。みんな仲良く、勉強に、スポーツにたくましく成長することを願っています。また、役場新庁舎も建設に入り、歴史に残る1年になるのかと。議会としてもこれらの事業の推移を見守ると共に、学校跡地、庁舎跡地の有効活用を考え提案し、地域の活性化につなげるように進みます。
角田 忍